

知的障害のある利用者への対応

京都府立南山城支援学校 藤澤和子

1.知的障害 (Intellectual Disability) とは

AAMR (アメリカ精神遅滞学会) の定義

知的機能が平均以下 (IQ70~75 程度以下)
適応行動に 2 つ以上の制約を伴う状態である。
コミュニケーション、身辺処理、家庭生活、
社会性スキル、コミュニケーション資源の利用、
自律性、健康と安全、実用的学習、余暇、労働
発症年齢が 18 歳以下

支援レベルによる分類

一時的 (intermittent) 必要なときだけの支援
限定的 (limited) 期間限定ではあるが、継続的な性格の支援
長期的 (extensive) 少なくともある環境で期間を限定することなく定期的に必要な支援
全面的 (pervasive) いろいろな環境で長期的に、しかも強力に行う必要がある支援

2.知的障害の認知特性

抽象度の高い記号は理解が難しい。

抽象的な情報の理解が難しい。

抽象度が低い	⇔	抽象度が高い
目の前にあること		目の前にないこと
最近体験したこと		体験がない新しいこと
直接的に自分の日常生活に関係すること		自分の日常生活に関係しないこと
具体的なこと		一般的なこと

動作的な能力より、言語的な能力が弱い。

3.対応で配慮すべき事柄

①言語指示や説明

長い文章、難しいことば、同じことを違う言い方で複数回説明、体験したことの無い内容の理解は難しい。

ことばの指示説明には、抽象度の低い視覚情報を併用する。(実演、実物、絵、写真、シンボル)

ことばの指示説明は、短い文章、やさしいことば、ゆっくりとした口調、

同じことを同じ言い方で複数回説明、体験した内容のある内容、失礼な言い方はしない。

②会話での注意点

「わかりましたか？」と尋ねられると「わかりました」と答える傾向がある。

自分の言いたいとは言えても、それに対する相手の話を傾聴、理解しにくい傾向がある。

③困った行動には

困った行動が、事前に起こらないように、ルールをわかりやすく視覚的に説明する表示をする。
参考例、やさしく読める公共図書館利用案内。

④サービスの多様性

LLブックコーナーの設置。

マルチメディア DAISY の紹介と見るための手伝い。

読むサービス 新聞、雑誌等。

⑤図書館の利用方法の広報

他機関と連携をとり、図書館利用のオリエンテーリングをもつ。

やさしく読める図書館利用案内の配布。

4.やさしく読める公共図書館利用案内

目的

読んで見て わかりやすい利用案内を作ること、知的障害などのある人たち、外国人、高齢者等の図書館利用を進める。

主なリライトメンバー

近畿視覚障害者情報サービス研究協議会 LLブック特別研究グループ・LL編集委員会
読書に関心のある当事者3名

特徴

やさしく読めるテキストの使用

わかりやすいことばを使う。漢字、カタカナにはルビをふる。

不要な表現や情報は削除する。具体的な情報を入れる。1文には1つの内容にする。

当事者に失礼な表現は避ける等。

視覚的にわかりやすいレイアウト

絵記号（ピクトグラム）を使う。内容を表す写真や絵を使う。

色彩を効果的に使う。大きな文字14ポイント以上。見やすい字体（ゴシック）。

わかちがきにする。一つの文がまとまって見られるように改行する等。

公開方法

近畿視覚障害者情報サービス研究協議会のHPからダウンロードできるように、データを公開。

http://homepage2.nifty.com/at-htri/ll_guide.htm（各図書館の実情に合わせて修正できるワードデータ）

現在、精華町立図書館、富田林市立図書館で活用。各市町の障害者関連学校、施設、外国人教育関連施設などに配布。

5.知的障害の人たちにやさしく読める出版物を増やすLLマンガ制作の試み（LLマンガ研究会）

マンガはわかりやすい？ マンガを読むためのリテラシーとは？